

視察報告

経済企業委員会 日程 4月13日(月)～15日(水)

①鹿児島県屋久島町

エコツーリズムの取り組みについて

屋久島のほとんどの面積が世界遺産として登録され、産業は観光に集約されています。観光産業は現状では好調ですが、観光客による自然破壊やごみの問題が浮上してきているとのことでした。エコツーリズムをテーマにした観光のあり方を模索する中で、自然林への入場制限や、海を資源とした新しい観光開発も進められています。

【所見】

自然保護と観光開発という二律背反の現状をどうクリアするかが問題点として指摘されています。佐賀市においても山の開発を観光の目玉として考えていますが、川や湖、森林部への人工的な破壊も想定できるため、開発と並行して事前に対策を講じておく必要があります。



屋久島町での視察の様子

②鹿児島県鹿児島市

鹿児島市観光農業公園整備基本計画について

観光農業公園は①食と農への理解促進②農業・農村地域の活性化③観光の振興の3つを目的とされています。この公園は指宿、知覧の観光ルートを考慮し、市南部に位置する喜入地区に整備する方針で、平成24年度供給開始を目指すとのことでした。

【所見】

計画は農村部と都市部の連携、農業を観光資源に変換することで、佐賀市でもこのような新しい農業のあり方を模索しています。実際の運用は始まっていないとのことでしたが、これからの農業のあり方と地域自然資源を観光資源として活かしていく考え方として面白い取り組みだと感じました。

総務委員会 日程 5月13日(水)～15日(金)

①神奈川県川崎市

総合コンタクトセンターについて

市民の利便性と満足度を高め、市民の意見を市政に生かすことで効率的な市政運営を実現し、市の魅力を高めることを目的に、平成18年4月から「総合コンタクトセンター」を運用されています。単に問い合わせに応じるだけでなく、苦情や要望、相談、意見も受け付けることで、窓口の一元化や業務の効率化が図れるとのことでした。

【所見】

コンタクトセンター業務を民間委託することにより、市民の問い合わせの大半から市職員が解放され、業務の効率化が図れる等のメリットがあると思われます。しかし、こうしたコールセンターを設置している自治体のほとんどは大都市であり、佐賀市の規模で実施した場合の費用対効果を考慮し、慎重に判断する必要があります。



川崎市での視察の様子

②埼玉県富士見市

自主防災組織について

市民が安心して暮らせるまちづくりを進めるため、地域住民が災害の危険性を認識し、相互に協力し合える地域コミュニティを育み、災害時要援護者にも配慮した自主的な防災活動を支援されています。このうち、市南東部の水谷東小学校区地域は、消防庁からモデル地域の選定を受け、「地域安心安全ステーション」が整備されています。

【所見】

公民館を核としたコミュニティ育成、チームでの防犯パトロールなど、単なる防災組織の域を超えて、住民が連携し協力する「まちづくり」に発展していると感じました。一方、自主防災組織代表者などの個人によるところも大きく、市全体に広がるには、行政側にも「リーダー育成」などの施策が求められるのではないかと感じました。

視察報告

建設環境委員会 日程 5月13日(水)～15日(金)

①群馬県太田市

パルタウン城西の杜の太陽光発電システムについて

太陽光発電システム（P Vシステム）の汎用的な対策技術を開発するため、独立行政法人・新エネルギー産業技術総合開発機構（N E D O）が実施している研究に協力する住民にはP Vシステム一式を全額国の研究費で設置でき、発電した電気は住民が使用できます。現在、553戸が実験に協力しており、容量は3～5キロワットで建物の東、西、南面の屋根に設置されています。

【所見】

これだけ集中的にパネルが設置されているのは初めてでもあり圧巻でした。時代の最先端を意識した街づくりという点で、成功した事例と言えます。N E D Oとの話とマッチングしたのがよかったとも言えますが、住民の協力がなければできないと思います。如何にして知恵を出し、工夫をしていくのかが問われます。

②東京都江戸川区

一之江境川親水公園沿線景観形成地区地区計画について

一之江境川親水公園は、平成8年に完成し、全長3,200mで、沿線は親水公園を中心に、みどり豊かな環境のもと、低層の建築物を中心とした町並みや、寺社や農地などの景観が多いところです。これらを残すため、地域で景観まちづくりの懇談会を開催し、地区計画の策定に至っています。景観地区では、建築物の形態意匠や高さ、壁面位置の制限、敷地面積の最低制限などの制約を受けることになります。

【所見】

佐賀市内には多くの小さな河川がありますが、水量が少なく市民が水に親しむという感覚にはなっていません。議会でも、水量の問題が議論されており、解決次第では水を基本とした施策が十分とれる余地があると思います。夢のある施策を掲げ、議論を詰めていくことも今後は必要となります。

中心市街地活性化調査特別委員会 日程 4月21日(火)～23日(木)

①岐阜県岐阜市

岐阜市における中心市街地活性化の取り組みについて

岐阜市総合計画の中では「めざすべき都市のあり方」として「多様な地域核のある都市」があり、中心部の生活圏のまわりに、観光拠点、学術拠点、文化芸術拠点、交流拠点、自然環境拠点、産業拠点などを位置づけています。中心市街地活性化の基本戦略としては、衰退する柳ヶ瀬地区の活性化、整備中の岐阜駅周辺を成熟化させること、その両者をつなぐ回遊性の実現という3つの柱で考えられています。

【所見】

柳ヶ瀬地区は、佐賀市同様大規模商業施設の郊外立地により、同地区の大規模小売店舗の閉鎖等衰退の一途をたどっています。活性化戦略においてまちの魅力づくりの演出は行われているようですが、熱意が見えてきませんでした。佐賀市としては計画の推進を図る徹底が必要だと思います。

②静岡県藤枝市

藤枝市の中心市街地のまちづくりについて

J R 藤枝駅を中心に南北の区画整理に取り組んでおり、主要幹線道路に囲まれた約160haを計画区域としています。今回の視察会場である複合施設「B i V i 藤枝」については市の所有地を民間に貸し、その中に市立図書館が入り、市は、民間事業者から地代と固定資産税を収入として得、一方で図書館の賃料と共益費を支払う関係とのこと。

【所見】

藤枝市は、自治会活動が活発で、とくに防犯の取り組みや美化活動には積極的であるとの説明でした。しかし、市民の活力なくしては、本当のまちづくりはできないため、(株)まちづくり藤枝の活性化事業がハード・ソフト事業だけではなく、次世代のまちづくりを担う人づくりにも大きく貢献する会社であれば、まちの発展の可能性は大いに期待できます。佐賀市でも同様の方向性で取り組むべきと感じました。



「B i V i 藤枝」での視察の様子

視察報告

人口問題調査特別委員会

日程 4月20日(月)～22日(水)

① 島根県大田市

大田市定住促進ビジョンについて

平成18年度を定住元年に位置づけられ、平成19年度に大田市定住促進ビジョンを策定されています。このビジョンをもとに、産業振興、子育て支援、住宅対策、魅力あるまちづくりをキーワードとして、定住施策に取り組まれています。

【所見】

佐賀市でも定住促進戦略を策定し、今年度から、戦略に基づく定住施策に取り組んでいます。この戦略をもとに、これから定住促進の事業展開を図る佐賀市にとって、2年前から取り組まれている大田市は、大変参考になりました。

② 財ふるさと島根定住財団（島根県松江市）

ふるさと島根定住財団の取り組みについて

島根県が出資されて創設した財団で、県内の市町村と連携し、県内の定住促進に向けた活動をされています。また、若者向けの雇用対策の取り組みは、定住対策のみならず、昨今のニート問題の解決などにも積極的に取り組まれています。

【所見】

佐賀県でも「ネクストステージを佐賀県で」事業に取り組んでいます。この財団と先に訪問した大田市との連携した取り組みは、佐賀県、佐賀市、その他県内市町の、それぞれの特性に応じた役割分担や連携強化などに、大変参考になりました。

市立病院等調査特別委員会

日程 4月20日(月)～22日(水)

① 組合立諏訪中央病院（長野県茅野市）

地域医療の取り組み、病院の経営改革について

「やさしく、あたたかい、たしか医療を目指す」という基本理念のもと、ボランティアの方々の協力を得ながら、地域医療や経営改革に積極的に取り組まれています。

【所見】

ボランティアの方々の協力により、病院への垣根がなくなっていると感じました。佐賀市でも、そのような応援団づくりに取り組むことは、有用であると思います。



組合立諏訪中央病院での視察の様子

② NPO法人地域医療を育てる会（千葉県東金市）

対話する地域医療について

情報発信と対話の場づくり、医療育成サポーターによるレジデント（研修医）研修をとおして、地域住民による地域医療の育成のための活動をされています。

【所見】

医師と地域住民のコミュニケーションを円滑にする取り組みであり、大変いいことであると感じました。佐賀市でも、病院のサポーターを作ることは、市立病院の活性化に有用であると思います。

広報委員のつぶやき

この議会だよりが市民の皆様の手元に届く頃には、新たな議員が誕生している。議会と市民を結ぶツールとして、なお一層研鑽を願う筆と致します。

（大坪繁都）

「幾重にも幾たびも積みし罪とが
解けゆく術を神佛に絶る」
私たちは、なかなかうまく歩けない、良かれと思つてやったことが裏目に出ることがある。この様な事は、心の発意がどうあれ長い間に多くの罪とがを重ねて垢にまみれてあの世に行きたくない、そう思つて今日の一日を生きる覚悟である。
議会広報調査特別委員長として、私には重い職責であったが、六名のメンバーに助けられ、また議会議務局の適切な示唆に支えられ、なんとか毎回市議会だよりを市民の皆様が届けることができた。
分かりやすくしかも市民の耳目に耐え得る紙面を願つてきた。今後とも、開かれた議会を目指し議会広報の役割は大きいことを自覚しなければならぬと思う。